

所属・氏名（ 薬学部 薬学科 氏名：木村 幸司 ）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 広島がん化学療法研究会における多施設間共同研究 Monthly TC 療法と Weekly TC 療法における副作用モニタリングシートの作成と副作用の比較	共著	平成 24 年 2 月	日本病院薬剤師会 雑誌 vol.48、No2 pp.217～222 日本病院薬剤師会	パクリタキセル (PTX) とカルボプラチンの併用療法 (TC 療法) で、PTX を 3 週に 1 回投与した群と毎週投与した群の 1 コース目の副作用状況を広島市域 7 施設で後方視的に調査し、独自に開発した副作用モニタリングシステム (ARMS) を用いて副作用発現率を解析した。結果、婦人科がん 59 例、非小細胞肺癌 80 例の副作用発現情報によって経日的な副作用発現率を示す副作用モニタリングシートを高い精度で作成できた。また ARMS は多施設で入力された情報を簡便に統合・解析し、迅速な副作用モニタリングシートの作成を可能にした。 (木村幸司、北本真一、西原昌幸他)
2 シタグリブチン服用患者の HbA1c の推移と治療成績に影響を与える重要因子の検討	共著	平成 24 年 10 月	日本病院薬剤師会 雑誌 vol.48、No10 pp.1221～1225 日本病院薬剤師会	シタグリブチン服用患者の HbA1c 値に影響を与える重要因子の検討を行った。2011 年 5～12 月に 85 日以上投与された患者計 180 名を対象とした。HbA1c 値に影響を与える重要因子の抽出は多変量解析 (数量化 II 類) にて行った。HbA1c 値に影響する最重要因子は糖尿病薬の併用であり、以下 EPA 製剤の併用、年齢、中性脂肪値の順に強く影響を与える重要な因子であることが示唆された。 (藤本綾、池本雅章、佐々木雄啓、木村幸司他)
3 JHAIS データにみる日本の消化器外科領域における SSI リスク因子の検討	共著	平成 25 年 2 月	日本外科感染症学会 雑誌 vol.10、No1 pp.43～52 日本外科感染症学会	2009 年から 2011 年の 3 年間ににおける消化器外科領域の JHAIS・SSI データ (全国) の集計を実施するとともに、SSI 発生に影響するリスク因子について多変量解析を用いて手術手技別に検討した。肝胆膵手術、結腸手術、大腸手術、直腸手術の SSI 発生率は 14～18% レベルであり、これらの手技では高率に SSI が発生していた。RIC 別の評価で最も発生率が高かった手術は直腸手術の RIC3 で 47.06% であった。各手技の SSI 発生率は RIC が増加するほど高くなった。多重ロジスティック分析により、SSI 発生のリスク因子を抽出したところ、創分類、手術時間、性差、鏡視下手術、人工肛門設置が各手技共通のリスク因子であった。 (佐和章弘、木村幸司、森兼啓太、針原康)
4 広島がん化学療法研究会における多施設間共同研究 (第 2 報) - PE 療法と PI 療法における副作用モニタリングシートの作成と副作用の比較 -	共著	平成 28 年 4 月	日本病院薬剤師会 雑誌 vol.52、No4 pp.423～428 日本病院薬剤師会	小細胞肺癌における CDDP と VP-16 の併用療法施行群と CDDP と CPT-11 の併用療法群の 1 コース目の副作用発現状況を広島市域 5 施設で後方視的に調査し、独自に開発した副作用モニタリングシステムを用いて統合・解析した。結果、白血球減少、好中球減少において PE 群が高かった。発熱性好中球減少症は PE 群が高かった。 (森川記道、阪田安彦、阿部圭輔、北本真一、坂本健一、佐伯康之、今津邦智、木村幸司、西原昌幸、木平健治)
5 SGLT2 阻害薬エンパグリフロジン服用患者の HbA1c の推移	共著	令和 2 年 9 月	くすりと糖尿病 vol.9、No.1 pp.153～160 くすりと糖尿病学会	エンパグリフロジンが投与された患者を HbA1c が 0.5% 以上低下した患者とそれ以外の患者に分け、数量化 2 類にて血糖改善に影響する因子について検討を行った。結果、服用前の HbA1c、狭心症既往歴、アラニントランスアミナーゼが上位の変数として示された。 (佐々木雄啓、伊藤桂子、藤本孝則、岡村和彦、木村幸司、佐和章弘他)